

令和3年度

自己評価表

学校法人 愛知理容学園
アリアーレビューティール専門学校

1. 学校の教育目標

- 礼儀正しい人材の育成
- スペシャリストとしての即戦力となる人材の育成
- 就職、各種検定の全員合格

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 国家試験100%合格の継続
- 競技大会上位入賞
- 接遇マナー習慣づけ
- 清掃・整理整頓

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の理念・目的・教育人材像は定められているか	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	2
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2

- 本校の目的は、アリアーレビューティール専門学校学則および学校法人 愛知理容学園寄付行為に「教育基本法に則り学校教育法並びに理容師法、美容師法に基づき、理容師・美容師の養成に関する教育を施すことを目的とする。」と明確に定めている。
- 上記の目的に沿って、教育理念・教育方針（建学の精神）は、次のように明確に定めている。
 1. 私達は社会の一員として広い視野と教養をもって「人間の美を創る」ことにつとめます。
 2. 私達は常に一層高い技術と洗練された感覚をもって文化と公衆衛生の向上につとめます。
 3. 私達は和をもって団結し、真と善をもって人に接し、平素の修養を怠りません。

- 具体的な養成しようとする人物像は、理容科では、
 1. 一生涯理容師として活躍できるよう技術だけでなく強い意思
 2. 如何なる仕事でも工夫して良い仕事にしていく気持ち・考え方
 3. 常に向上心を持つこと
 美容科では、
 1. 多くのお客様に支えられる美容師としての人格形成
 2. 生涯を通じて土台となる基礎技術の習得
 3. 国家試験を全員取得し、サロンの即戦力となる力をつける
と定めている。
- 毎日朝礼でスローガン「全学一体 一致団結」及び「三者一体 物事を判断するとき、学生・学校・職員の三者にとって良い事かを考える。」を唱和している。
- 毎年の学校教育目標がない。学校目標が学科及びクラス目標になり、教職員の目標・行動計画にもつながっていくので、ぜひ、令和4年度は学校目標を立て、中期計画につなげていく。

(2) 学校運営

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
目標等に沿った運営方針が策定されているか	3
運営方針に沿った事業計画が制定されているか	2
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	2
人事、給与に関する規定等は整備されているのか	3
教務・財務等の組織整備等意思決定システムは整備されているか	2
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

- 人事評価制度が始まり、評価結果に基づく2022年度給与が決定することになる。
- 日本で最も人気のあるサロン AFLOAT グループの最高責任者である「宮村浩気」先生が学長を務め、全国に15校開校している「アフロート美容専門学園」さまと業務提携を交わす。通信生を中心とした学生募集強化と授業内容の充実を一層図っていく体制を整える。
- 日々の教育活動については、月曜日～金曜日まで学校HPにおいてブログ・FBを活用して情報公開をしている。また年2回学園新聞を発行し、保護者・地域住民・高等学校

等へ配布している。(前年同様) インスタグラムに関しては、週明け及び週末に読まれる傾向があり、週末中心に発信している。

- 愛知県は、県内の専修学校のうち、企業と連携して実践的な職業教育を実施する「職業実践専門課程」に当たる学科を設けている 58 校に対して、1 学科当たり、年間 20 万円を補助する制度の新設も検討している。今後も引き続き、企業連携を図りながら教育の質向上に努める。
- 教職員個人へのパソコン支給ではなく、業務内容に基づくパソコンの共有化を図る。どのパソコンから他それぞれのパソコン内容が、教職員の個人情報以外は「見える化」ができるようにし、職員間のフォローアップ体制や情報の共有ができるようにする。
- 教職員ベースの学科目標・クラス目標はあるが、学校自体の年度ごとの教育目標がないので、一体感に欠ける。

(3) 教育活動

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連帯により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連帯によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3

関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	1

● (理容科) 令和3年度の教育目標(具体的に養成しようとする人物像)は、

- ・理容師として、様々なものに興味が持てる好奇心ある技術者
- ・細かい所にも気遣いができる発見力のある技術者
- ・様々な実習を行い、サロンの即戦力となる実践力のある技術者とする。

(振り返って) 教育目標に関して、実習及び平日頃から、いろんな事に興味を持つ・発見力をつける事の大切さ等を周知する様に心がけてきましたが、なかなか生徒の方まで伝わらず、歯がゆい思いをしている。即戦力になる様に、様々な工夫の最中ではあるが、シャンプー・シェービング等の実習時間を増やしたり、カラーの塗布法・実習など、主に就職した際に、恐らく序盤でやるであろう事をメインに実習を重ね、それ以外でもアイロン技術も行ったり、発展途上であるが生徒が技術的に興味を持てるように模索している。まだまだ改善できると思うが、これ以上改善させるというのは、今の学校環境では、求められても難しい面もある。善処していきます。

● (美容科) 令和3年度の教育目標(具体的に養成しようとする人物像は、

- ・多くのお客さまに支えられる美容師としての人格形成
- ・生涯を通じて土台となる基礎技術の習得
- ・幅広い技術を学び、時代の変化に対応する発想力を培うとする。

(振り返って) 目的・目標に沿って、カリキュラムを作成し、充実した2年間を過ごすことができていると思われるが、ごく一部の生徒には興味のある授業と無い授業が見られ、意識や態度にムラがあり、講師の先生も指導に苦労している。改善策として、①資格検定申込を個人エントリーにする、②学費の中に検定料金が入っているが、受験しない生徒に払い戻しはしない、③学びの意味や必要性を生徒にもっとアピールする時間を作りたい。

● (トータル科) 令和3年度の教育目標(具体的に養成しようとする人物像)は、

- ・ヘアメイク、ネイル、エステに関するトータル的な知識・技術を身に付け海外中心に理美容業界で活躍できる人財
- ・技術力とコミュニケーション力を兼ね備えた人財
- ・「喜ばれる喜び」を持って、自利利他の精神で社会貢献できる人財

(振り返って。 生徒の気質として、時間内ギリギリまで努力をすること・忘れ物をしたこと・無断欠席に対する意識が希薄。)

- 生徒への迎合と満足は違うと思う。生徒満足に対してもっと学校としてどうあるべきかを考えると、授業などでの「意義や目的の事前説明と振り返りの有無」が生徒の納得感が成果・効果に結びついていることがわかった。
- 現在、国の方で、美容師の養成のあり方に関する検討会が行われており、美容師の在り方が問われています。養成のあり方に係る主な課題がでてきており、注視しながら学びの工夫を考えていく。
- 学校教育とサロン教育のギャップを埋めるために企業連携をしている。
- 外国人留学生が安心して学べる学校環境を構築すること、留学生受け入れ実務、入管への申請取次者実務、退学率がゼロに近づくよう教職員の指導力向上に役立つことを目的とした研修を行う。(主催 大阪出入国在留管理局。学校法人 山口学園 留学生事業部。)
- 名古屋美容協議会主催の在宅高齢者訪問 理美容サービス事業講習会がアリアーレで開催され、在校生も参加。新たに愛知県福祉理美容技能評価認定制度として県知事評価制度になる。在校生にとっては、資格取得の幅が広がる。
- 教職員研修を単なる指導資格としか捉えていないので、教職員の技術的進歩はほとんどない。パソコン・コンピュータ等の専門学校の教員はシステムが日進月歩なので、日々勉強しないとついていけないが、理容・美容の国家試験は数年来ほとんど変更点がなく、硬直化しており、またそれに頼ることしか学校全体が考えていないので、カリキュラムもそれに準じたものしか当校は基本的に持ち合わせていない。美容を中心に市場のニーズやファッション・トレンドは毎年変わるが、新しい技術を学ばせようとする意識が低い。
- 人事評価をしてから研修及び研修評価につなげる(あなたは、これができていないからこの研修等)ことはしていない。教職員の能力評価を学校経営の中でやっていない。(前年同様)
- 実務者を育てているのに国家試験や技術大会が気になるようになってしまっている。(前年同様)

(4) 学修成果

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

- 日本理容美容教育センターより、平成 30 年度より産学連携推進モデル事業として、養成施設（学校）と業界団体（組合）との連携を深めることにより、卒業生の受け入れ及び理美容所の労働環境の整備等、産学連携を助長し、理美容所（産）と理容美容教育（学）との連携促進をより一層深めることを目的とした事業が始まっており、「産学連携就職情報交換事業」の求人票が県生衛組合より東海地区理容美容学校協議会を通じて届けられ、学内で公表（掲示）しているが件数が非常に少ないのが残念。
- 卒業の認定に係る方針は、少なくとも、学生が身に付けるべき資質・能力の目標が明確になるように定め、「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学修成果を挙げれば卒業を認定できるかを具体的に示している。（パンフレット、HP に掲載している。）
- 新しくスタートした留学生クラス（トータルプログラム科）では、24 名の入学者中、9 名が退学。（理容科・美容科に在籍の留学生を除く。）理由は帰国、学費支弁不能、在留資格変更（就労）等様々だが、連絡不能も 2 件ある。日本語学校とのちがひ、遅刻・欠席の連絡、学習意識・意欲も含め日本人の生徒と何が違い、何が同じなのかの理解に戸惑う面がありました。初期指導の重要性、在籍管理・出欠管理、授業進行の見直し、生活状況、家庭状況（家族の期待や支援）の把握に一層努める。学費の徴収漏れも発生させてしまう。
- 資格取得に関しては、在校生だけでなく、一般市民へのリカレント教育（カルチャースクールのような）の一助になるよう、「公開授業」として募集を実施。令和 4 年以降も続けていく。

（5）学生支援

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
---	---

- 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 高等課程の2年生(理美容師、エステティシャン、デザイナー等になりたい生徒。約30名)に対して、令和4年4月より毎週水曜日(毎回2時間。1年間。)授業を受け持つことになる。ネイルやメイクなどのトータルビューティーも含め、人々の生活を美の側面から創造できる授業を展開する予定。
- 2022年度から始まる予定の高等学校普通科改革の中でも、大学や自治体、企業と連携、地域や社会の未来を担う人材育成がうたわれています。新学科の名称、教育方針、特色の内容を今秋までに公表されるので教育方針や授業内容によっては何らかの働きかけをしていったらどうかと考える。
- コロナ禍で就職活動にも変化があり、インターン研修中止に伴い、職場見学・企業訪問・企業との接点に影響が出た。(企業とのコミュニケーション不足) 県内企業の募集状況と採用スケジュール自体には大きな変化は見られなかったが、web面接・オンライン面接の導入等、面接の実施形態についてコロナ禍を機に多くの企業が導入しており、今後の採用方法がどのようになるのか注視したい。(求人数や採用スケジュールの不安) 学生と企業 mismatchesを防ぎたい。(前年同様)
- 国策として、日本の魅力を世界へ発信するクールジャパン戦略が推進され、日本のコンテンツ等に対する外国からの関心が高まっていることを受け、2022年4月より、外国人美容師制度が始まる。愛知県でも特区申請が出され、就職先として活用できればと思う。

(6) 教育環境

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

- 留学生も新たに入学されたこともあり、9月の防災の日に昼間生全員で千種区防災マップに基づき、指定緊急避難場所(千石小学校)まで行き、確認する。
- 玄関前等整備に関して議論があり、一部方向性を示したが進展なし。将来の利益につながる設備投資の方向性がない。

(7) 学生の受け入れ募集

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学生募集活動は、適切に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
学納金は妥当なものとなっているか	3

- 令和3年4月、外国人留学生を対象とした新科「トータルプログラム科」の入学者は定員20名に対し、24名。(別に美容科も2名。)
- 最近の新型コロナウイルス感染症対応のために、留学生の再入国あるいは新規入国が非常に難しくなっている。日本語教育機関の在籍者数の現状は、2021年12月(または7月)と2022年度卒業見込者数(2023年3月)を一部比較すると、日生日本語学校(103名→40名)、ユーゼック(40名→0名)、ARMS日本語学校(20名→0名)、ラボ日本語学院(20名→0名)、名古屋福德(73名→20名)。コロナ問題が解決すれば従来の状況に戻るという考えは、あまりに楽観的で、周辺諸国の動向を考慮すると以前の状態に戻らないと考えるのが妥当と思う。そこで考えるべきは社会人を対象としたリカレント教育、生涯学習であり、働くことを前提として、仕事に活かせる知識・スキル、またスキル等ではなく、趣味やボランティア等仕事に直接つながらない方も、より豊かな人生を送れるような感じで学んでいただけるような講座を開設。一般の方にもご利用いただいている。
- 令和2年1月～令和2年12月の1年間のオープンキャンパス参加者は131名で前年より72名減。新規3年生参加者は32名で、その参加者からの出願割合は81%(例年50%ぐらい)。1年生・2年生の参加者数が大変少なく、令和4年4月入学者に向けて何らかの募集戦略が必要。そこからの対策が明確にできなかった。
- 学納金に関して、再検討を図る。(令和3年中に。)
- 2022年(令和4年)4月からスタートする国の外国人美容師育成事業に関し、東海地区の日本語学校(約40校)に対して、当校の取り組み、実績を文書で2回広報する。まだまだ、日本語学校側には美容系は国内就労できないというイメージがあり、留学生が活躍できる幅が広がっていることをさらにアピールしていく必要がある。
- SNSの活用に関しては、訴えるツール、投稿時間や文章量の工夫をしている。特に会場ガイダンス始め、多くの高校生を動員しづらい新型コロナウイルス下の学生募集なので知恵を絞っている。ハッシュタグ(検索目印)を付け、ほぼ毎日更新したり、インスタグラムでは、簡単に投稿できる機能「ストーリーズ」を駆使し、授業の様子を写真や映像を交えて紹介している。
- SNSは学校の魅力を訴える大切なツールではあるが、確実に学校の魅力を伝えるには、学校訪問での高校教員との対話や文書送付、個人情報からのDMも実施している。SNS

の更新頻度を増やしてもフォロワー数は伸びず、高校生と積極的に交流できるよう、高専接続を増やしていきたい。直接話しかけることが大切。

- 募集広報の検証・改善(現状と課題)のために入学者調査をしている。質問項目として、
・入学者の特徴(学習や仕事に対する意欲、自己評価・自己肯定感、職業決定度)、
・伝わった「学校の価値」(価値評価、個別施策評価)、
・入学までのプロセス(認知ルート、メディア、接触パターン)、
・競合状況(各校への接触状況、最も入学を意識した学校、自校と競合校の「価値」の違い)。(前年掲載)入学者調査より入学しなかった調査が必要と考えている。(2019年分よりHP上で公表。卒業生調査同様。)
- 令和3年高校卒業生(男子)の進路状況の専門学校進学割合が愛知県は全国で2番目に低く(9.8%。最下位の広島県は9.5%。全国平均13.7%)、専門学校進学に対する高校側の理解が低い。(愛知県は大学短大58.5%、就職21.4%、その他10.2%)自校だけでなく、専門学校全体の県内における社会的認知も上げることに参画していきたい。
- 広告に頼った募集に疑問を感じる。(広告より教育)教育の質こそ、学校ブランドの要であり、選ばれる学校の教育の質とは何かを考える必要がある。厳しい学生募集環境の中で専門学校の教育力が問われている。

(8) 財務

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
財務について会計監査が適切に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

- 前年の自己評価で、有期雇用労働者、短時間労働者といった、非正規雇用労働者の企業内でのキャリアアップを促進するため、正社員化、処遇改善の取り組みを実施。雇用保険のキャリアアップ助成金制度を活用する旨を報告したが、人材の定着等までには至らず。
- 経費削減を図る一方で設備の充実と教育の強化を図りバランスをとっている。27年度自己評価にて、少子化問題、老朽化してくる施設、設備、教育上の必要性に十分対応ができるのか、また学生納付金収入に著しく偏った現在の経営では、学校運営が厳しくなることが予想され、収益事業の方向性を検討課題としたが、今だ何ら進展していない。減り続ける18歳人口のみを実質的な市場としている以上、中長期的に財務が安定とは断言できないことをずっと課題としていたが、だれでもが気軽に参加できる公開授業を開始。在校生以外の方が受講されるようになり、今後もメニューを増やしていきたい。

- 数年来、理容科・美容科及び昼間課程・通信課程ごとの目標及び実績の細分化をし、教職員に当事者意識もってもらおうように行ってきましたが、全体的なお金の動きの確認が中心であった。もっと計画したカリキュラム時間数(カット時間数やワインディング時間数)を厳守し、それに対応する教職員名、かかる講師給等数値の把握をしないと、ムダ・ムラの把握ができず、結果的に教育の生産性が上がらない。(前年同様)2年間で国家試験は時代遅れであり、すぐに卒業後活躍できるようにしないと教育生産性は本人側も学校側も上がらない。教育の生産性を職業教育に入れないといけない。(短い時間で)

(9) 法令等の厳守

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	2
自己評価結果を公開しているか	4

- 令和2年4月1日施行の改正私立学校法に対する寄付行為等の整備はできているが、学校評価制度に基づく学校教育目標はまったくできていない。学校教育目標に基づく教職員の行動計画・行動評価をしていないので、次年度以降はしっかり学校として毎年、教育目標を立てる。よって事業に関する中期的な計画も体をなしていない。
- 個人情報の取り扱いに関して、学校HP上等で学生たちの活動の様子である写真や作文を掲載することがあります。これらはその都度、公表について各家庭の意思確認はとっていません。掲載や公表を控えてほしい際は、申し出ていただくよう、入学前保護者会や学園新聞でお願いしている。
- 自己評価の実施からどのような意見をどう受け止め、さらにどのように対処したかということが今一つできていない。改善したことを示さなければ教職員も意見を言わなくなる。そこで改善が止まってしまっている面がある。職員会議で出た意見収集や案については職員会議で、フィードバックしていく。
- 服務規程に記載されていることが守られていない。できないものをどうしたらできるか考える必要がある。
- 国の理(美)容師指定規則に基づく運営が届出事項の一部等でなされていない。指定規則に準じた運営ができているかどうか、職員レベルでは、同僚であるが故の甘さがみられ、またリーダーも不在。監査は機能していない。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

- 教育素材の充実、施設改善、保護者負担軽減、新型コロナウイルス感染症関連等に鑑み、一層のゆきとどいた教育を実現する上で、寄付等をお願いしておりますが、今年度5件、近隣住民の皆さまや、また遠方からも着物の寄贈を受けることができました。また学校PTAからは留学生向けに生活補助として、食料品の支援を受けました。
- 大学・専門学校における社会人受入れの推進に関する制度が充実する中で、地域住民の皆さんに学習機会を提供する「公開講座」を開設。通信生を含めた在校生はもちろん、一般市民の方からも受講申し込みがあり、今後も理美容に限らず、バラエティーに富んだ講座の開設に努めていく。
- 地域連携プロジェクトと称し、名古屋市および周辺地域の企業、団体との連携協力を維持・発展させ、アリアレの特性を生かした社会貢献を行い、地域の要望に応えるよう努めているが今年度も昨年度同様にほとんど実施できず。（献血のみ）
-

(11) 国際交流

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

- 留学生が入学するには原則として満18歳以上の、母国等において12年間の学校教育を修了した者で、且つ日本の法務省による在留審査を経て留学の在留資格を得ることが前提としている。
- グローバル化に対応した人材養成のため、日本語教育機関等と連携をしながら、当校における留学生受入れに関する質的・量的充実に向けた努力をしている。令和3年4月

入学の留学生の内訳は日本語学校数 12 校 27 名（美容科 3 名、トータル 24 名）で 4 月スタートの新科（トータルプログラム科）は、定員 20 名がいっぱいになる。（令和 2 年 4 月入学生の日本語学校数は 3 校 9 名。）出身国数が増え、一層、各国の事情を把握することが重要になる。（新科 24 名の出身国はネパール 10 名、ベトナム 9 名、スリランカ 3 名、中国 1 名、ミャンマー 1 名）